

本院脳神経外科において頭蓋咽頭腫と診断された患者様へ

課題名「頭蓋咽頭腫の嚢胞・浮腫形成および再発機序の解明」

1. 研究の背景

頭蓋咽頭腫は、胎生期の頭蓋咽頭管が消えずに残ったものから発生する脳腫瘍と考えられています。これにより間脳下垂体系を圧迫し下垂体ホルモンの分泌不全、視神経を圧迫し視機能障害、自律神経系の機能不全、視床下部や脳弓の機能不全による記憶力障害、脳室内での髄液の流れを障害して水頭症を併発し頭蓋内圧亢進症状など種々の症状が出現します。治療は手術（内視鏡下経蝶形骨洞手術あるいは開頭手術）により全摘出が可能ですが、周辺構造との癒着や浸潤がある場合、全摘出は困難です。頭蓋咽頭腫は良性腫瘍に分類されますが、しばしば嚢胞が増大し、周囲に広範な浮腫を生じます。このことから頭蓋咽頭腫の治療においては嚢胞・浮腫形成の機序を解明し、コントロールすることが治療戦略上非常に重要であると考えますが、その機序は解明されていません。

2. 研究内容

当科にて診断・治療された頭蓋咽頭腫の患者様のデータから、画像的特徴や臨床経過、手術により得られた標本の詳細な評価を行い、腫瘍増大や嚢胞・浮腫の形成、再発の機序を明らかにするものです。またしばしば鑑別診断が困難となるラトケ嚢胞と比較し鑑別点を新たに見出します。

3. 対象

対象は、1964年1月以降、当院にて頭蓋咽頭腫と診断されたすべての患者様とします。

4. 研究の方法

脳神経外科の通常の診療において得られた、頭蓋咽頭腫の臨床情報を診療録、受診時および周術期の血液検査データ、CT・MRIなどの画像検査、手術で摘出された頭蓋咽頭腫の病理標本、腫瘍から得られた蛋白・遺伝子、などのデータを見返し検討するものです。

5. 個人情報保護への配慮

本研究調査を行うにあたっては、患者氏名や患者番号などを取り除いたうえで研究試料として使わせていただきます。このような情報を除いたものであっても金沢大学脳神経外科の管理者が責任を持って厳重に保管します。集計したデータについては本研究のためにのみ使用します。この研究調査の対象になる方々については、ご協力いただけるか否かについては自由意志です。ご参加を希望されない場合はお手数ですが、2020年2月1日までに研究責任者までご連絡いただけますようお願いいたします。また一旦同意なさる意向でありましても、後に同意を撤回される場合には研究期間内であればその時点でデータを取り除いた状態で集計報告を行います。参加を希望なさらない方についても、今後本疾患に関する検査や治療を行う際に不利益となるようなことはありません。

6. 研究に伴う費用負担

この研究は通常の保険診療行為の範囲内で行われ、新たな費用は発生しません。

7. 研究に関する窓口

この研究の内容について、疑問、質問、更に詳細な情報を知りたいなどがありましたら、当科へ御連絡ください。

金沢大学附属病院 脳神経外科
研究責任者 林 康彦 電話 076-265-2384